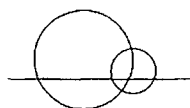


〈展示会〉



## 孫文—神戸、長崎そして東亜同文書院・愛知大学—

(2009年11月3日 神戸国際会議場)

【司会】 皆さんこんにちは。ただいまより講演会「孫文—神戸、長崎そして東亜同文書院・愛知大学—」を始めさせていただきます。私は司会を務めさせていただきます愛知大学東亜同文書院大学記念センター運営委員兼愛知大学現代中国学部の馬場と申します。よろしくお願いします。それでは最初に私共の佐藤元彦学長から挨拶をさせていただきます。

【佐藤】 皆様こんにちは。ただいま紹介いただきました愛知大学の佐藤でございます。本日は東亜同文書院大学記念センターが主催をいたしました講演会を開催いたしましたところ、このように多数お集まりいただきましてありがとうございます。まずは御礼申し上げます。

愛知大学東亜同文書院大学記念センターは設立されてから10年以上を経過しております。この機会にぜひ覚えていただきたいのですが、「愛知大学」の名前は、愛知県に所在をしているからではなく、「知を愛する」者が集う場として創設されたという経過から、その名前が付いているわけでございます。この愛知大学の前身の1つが、戦前中国にございました東亜同文書院（その後大学に昇格）であったということを踏まえまして記念センターが設立されました。設立されてから10年以上経過していると申し上げましたが、この間4年前から、文部科学省のほうで特別の補助金をいただきまして、その補助金を用いながらさらにセンターとしての充実を図っております。本日の講演会、また昨日から開かれております展示会、いずれもこの文科省による補助を受けて実施をしてい

るわけでございます。

先ほど4年前と申し上げましたけれども、最初の2年は東京・横浜、3年目の昨年は私のふるさとでもある青森県弘前市、ここは東亜同文書院にゆかりのあった山田兄弟の生誕の地でございますが、こちらで本日と同様の展示会・講演会が開催されました。それからさらに福岡でも開催されて、こちらのほうも非常に盛況でございました。東亜同文書院の卒業生が全体で5,000人ぐらいおりまして、その4人に1人が九州の出身ということで、当日は多数の卒業生の方に駆けつけていただいたことを記憶しております。そして今年は孫文と非常にゆかりのあるこの神戸の地で、展示会および講演会を開催させていただいたところでございます。来年は文部科学省の補助金の最後の年度になりまして、名古屋での開催を予定しております。

さてそのような源流をもって愛知大学が創設されたのは1946年のことでございます。今から60数年前ということになりますけれども、以上申し上げたような歴史的背景を大きなバネといたしまして、その間愛知大学においても中国の教育・研究に熱心に取り組んでまいりました。この地域の皆さんも、もしお子さんなりお孫さんなりが中国の教育研究に関心がおありになるということであれば、ぜひ志望校の1つに愛知大学を加えていただければと希望しているところでございます。

具体的に申し上げますと、1997年に現代中国学部という、おそらく日本では唯一の学部であろうと思われます学部が設置されました。それ以前も

文学部なり法経学部あるいは法学部、経済学部、経営学部なり、あるいは国際コミュニケーション学部なりでそれぞれに中国についての教育はなされてきたわけでありますけれども、言わばそういった学内の資源を集約し、大学としての特徴を出すために、12年前に現代中国学部をスタートさせたものであります。名称だけではございません。中身も非常に充実したものです。現代中国学部に入学者は全員が、1年生の最後から2年生の前半にかけて、中国の天津にございます南開大学を拠点といたしまして中国語の研修を受けることになっております。これは全員でございます。南開大学には南開大学愛知大学会館という会館がございます、これは愛知大学がお金を寄付いたしまして南開大学さんに建てていただいた建物でございますけれども、そちらに宿泊施設もございますので、学生さんが滞在し、現場で中国を勉強する、そういう教育プログラムを確立しています。

さらに3年生、4年生になりますと、身に付いた中国語を使いまして中国の実際の社会を、短期間ではあるんですけども調査をする、中国現地研究実習という科目も設定されております。さらには就業体験と日本語で言っているのが適当かどうか分かりませんが、いわゆるインターンシップ、こちらについても中国にございます企業と連携をして、上海および北京を中心にして展開しているということでございます。東亜同文書院時代の現場を重視するという観点で、以上申し上げたような中に活かされておまして、これは我々が「三現主義」あるいは「三現地主義」と呼んでいる教育のプログラムでございます。

現代中国学部は先立ちまして大学院につきましても、中国研究科が1991年に設置されています。こちらについても中国についての専門家の養成、あるいは中国で活躍する人材の育成、こういったものに力を入れてこの間展開をしていっているところでございます。この大学院教育において非常

に特徴的なのは、愛知大学と中国の北京にございます人民大学、それから天津にございます先ほど触れました南開大学との間で、テレビ回線で日中同時の授業を展開しております。日本人の学生は愛知大学から、中国人の学生はそれぞれの中国の大学から画像を通して同じ授業に参加している。そういうプログラムでございます。当初は博士課程だけでスタートいたしましたけれども、修士課程にも現在一部取り入れられていると聞いております。博士課程については中国語と英語だけで授業がなされております。博士の二重学位ということで、3年間で論文を2本書かなくてはならないわけですが、中国の大学の学位と日本の愛知大学の学位、この2つを授与するというプログラムがございます、これにつきましては現在すでに毎年数名ずつ実績が出ているところでございます。

余談になりますけれども、私自身は中国の専門でも中国語が話せるわけでも何でもないわけですが、今のプログラムに英語で授業をするという形で参画をさせていただいておまして、南開大学の経済学部の教員になっている、そういうケースも現在ございます。先般日中学長会議というのがございまして、初めて参加をさせていただいたわけですが、会場が南開大学だということもありまして、会議のあと今の二重博士学位のプログラムを修了して南開大学で教鞭をとる、2人のいずれも女性の教員の方々と懇談をするという非常に嬉しい時間を私自身持つことができました。

そのような学部・大学院という非常に特徴的な形で、そして日本だけではなく世界的にも注目されるプログラムを展開しているところでありますが、併せて主に社会人を念頭に置いて、日本で4番目の孔子学院というのを設置しています。これは日本では立命館大学が一番手でございます、アジアの中では韓国のソウルに設置されたのが最初でございますけれども、愛知大学についても中国のほうから要請がございまして、2006年に

孔子学院を設置し、中国語あるいは中国に関する教養的な講座を開設しております。こちらは毎年だいたい1,500名ぐらい受講生がいるということで、非常に盛況でございます。

さらには社会貢献の一環になりますけれども、毎年中国の恩格貝というところに植林事業を展開しております。ポプラが主でございまして、毎年40～45名ぐらいの植林隊を派遣し、既に13,000本を超える植林をしております。現役の学生さん、卒業生、さらには一般社会人も参加する混成チームを編成して送り込みます。ちなみに本日司会をいただいている馬場先生には、今年も植林隊

の隊長をお務めいただいております。社会貢献であると同時に重要な教育の場として、この間続けているところでございます。

長くなってしまって申し訳ないんですけども、せっかくの機会ですので以上愛知大学について少しご紹介をさせていただいて、挨拶に代えさせていただきますと思います。最後になりますけれども本日の講演会、あるいは明日まで続く展示会が我々にとってだけではなく皆様にとっても実り多き成果が得られるよう祈念申し上げます。本日はありがとうございました。